



金谷川小だより

かなやがわ小フランドの創造

令和2年12月17日
福島市立金谷川小学校
児童数 81名
校長 宍戸 与一

気が付けば年の瀬・・・

年々、月日の過ぎる速さが増しているように感じるのは、私だけでしょうか。今年も残りわずかとなりました。

いつか思い出す日が来ます。この年、自分は何をしていたのか。

学校が再開されたころ、もしかして新型コロナウイルス感染症は、それほど広がらないのではと根拠のない淡い期待を抱いた自分が恥ずかしいです。収まるどころか、悪化していくばかり。感染者数は最多記録を更新し、県内でも、家族間感染、濃厚接触者、PCR検査、休校という情報が飛び交い、緊急事態宣言が出された春の状況よりもよくないと思われまます。しかし、私たちはこの9か月で身に付けたウイズコロナでの生活スタイルを真面目に油断することなく続けていきます。以前のようにいつかマスク無しで笑い合える生活が取り戻せる日まで、心豊かにたくましく。今後も、全校体制で感染拡大防止に取り組んでいきます。ご家庭での健康管理のご協力に感謝します。一緒にこの試練を乗り越えていきながら、私たちの未来である子どもたちを大きく成長させていけるように、これからもご理解とご協力をお願いします。世界の人々を招いて開催するはずだった東京2020オリンピック・パラリンピック大会の延期。学校から子どもたちが消えた約2か月。分散登校。遠足、鼓笛パレード、春の運動会の中止。それでもいつか将来、2020年のことを振り返った時に、家族みんな「頑張ったねえ」と胸を張って笑顔で話せることを心から願っています。

「人を大切に」

もう一度念を押しておきたい大切なこと、それは、子どもたち、そして私たちみんなが、新型コロナウイルスに関連したいじめや誹謗中傷を許さないことです。全教職員で、“いじめは絶対許さない”ということはもちろんのこと、感染を拡大しないように頑張っている医療従事者、高齢者や小さな子どものいる家庭、社会・日常生活を支えている人、治療を受けている人とその家族、この事態に対応している全ての方々をねぎらい、敬意を払うことの大切さを、繰り返し指導しています。

不自由な生活が続いて、心の余裕がなくなり、他人に対する思いやりが減っているのではと懸念されます。正しい感染防止対策をとりますが、心は常に相手に寄り添い、思いやりをもって接してほしいと願っています。

福島市では、新型コロナウイルス感染症に関する誹謗中傷被害相談窓口を、〔024-521-8647〕に設置しています。(学校への相談も承ります)

お願い

本県の新型コロナウイルス感染者数が、拡大傾向にあり、感染症対策をより一層強化する必要があることから、子どもの同居の家族が濃厚接触者に特定されたり、風邪症状が見られたりした場合、登校を見合わせてください。欠席、ではなく、出席停止扱いになります。